

天気予報を利用した日本語力の向上と感性を高める教育 ～『お天気メソッド』の実践と普及～

筑波大学附属聴覚特別支援学校

山本 晃

《気象文化大賞受賞研究の概要》 毎朝の天気予報で気象予報士・気象キャスターが話している言葉や言い回しは、児童・生徒に是非教えたようなものが多い。さらにそれらの話の中には季節感や生活に密着した話題がたくさん含まれている。朝聞いた天気予報を、その日のうちにタイムリーに子どもたちに伝え、その話に合った天気を一日感じることによって、四季を通じたこれらのことばやいい言い回しを理解したり、季節感等を学ぶことができると考える。つまり「お天気メソッド」は生活に根ざしたことばを身に付ける一方法であると考え。本報告は、平成25年度に WNI 気象文化創造センターから助成頂いた研究報告である。普通小学校・普通中学校、特別支援学校で授業実践した事例を記載するとともに、各教科等への発展的扱いに関する実践をも例に出して報告したい。

1 はじめに

子供達（健常児並びに特別支援が必要な児童）に、豊かな日本語力を育てることや、季節感、豊かな感性を育てるといことは新学習指導要領にも掲げられているとおり、教育の根幹的課題である。学校現場では毎日の授業でこれらの目的の実現のため、教科学習を中心とした学習が行われている。

本授業実践では、天気予報の気象キャスターが使用している日本語の表現の中に、私達にとって身近で子ども達に教えたことばが多くあることに着目した。

例えば次のような天気予報の話が毎日話されている。

（子ども達に教えたことばを青色で示した。）

「どんよりとした厚い雲におおわれるでしょう。暑さもやわらぎ、すごしやすい一日となる でしょう。」

「午前中はぽかぽか陽気になるでしょう。昼過ぎから北よりの風がじょじょに強まり、煙突 からの煙がたなびくぐらい吹くでしょう。1枚厚手の服をはおって外出してください。」

「お出かけには雨と寒さの対策が必要です。午前パラパラ、午後ザーザー、1日中ぶるぶる、 あたたかい服装を心がけてください。足元が濡れるほどの本降りになります。横殴りの雨 になるかもしれません。」等

また、例えば真夏の暑さの表現一つを取ってみても以下のような表現がある。

「空気がじとじとまとわりついてくるような暑さです。」

「うだるような暑さになりそうです。」

「体にこたえる暑さです。」

「日ざしがじりじりと照りつけそうです。」
「各地で逃げ場のない暑さがつづいています。」
「寝苦しい夜に拍車がかかります。」

等様々な生活に密着した日本語が使用されている。このような日本語をあらためて意識し、日常生活で使っていくことで、言語感覚が磨かれたり言語環境が豊かになることに繋ると考える。また、天気予報の話からイメージする絵を描くことで、季節感や感性を鍛えることもできる。

例えば

「強い風が吹きます。洗濯物はしっかりとめるようにしましょう。」
という話からイメージする絵を描く場合、洗濯物が揺れているか、髪の毛がなびいているか、スカートがあおられているかなどといったことを「なびく」「あおられる」等の日本語とともに理解できているかを確認することができる。

このようなお天気に関する話を日々扱い、子ども達に豊かな日本語と季節感等豊かな感性を磨く実践を行ってきた。

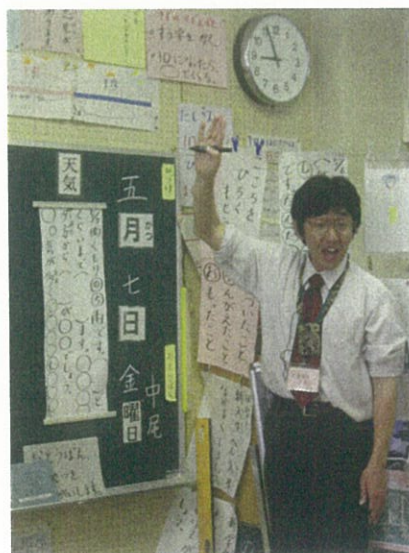
私が担当した学級（小学校低学年）では、毎朝、その日の天気を5分から10分程度扱っている。具体的には、テレビの天気予報で予報士が話した内容を要約し、黒板に貼って、内容についてやりとりを行っている。通常黒板の右はしに、日付けや曜日、日直、天気を書くが、その『天気 晴れ』等と書くところを3、4行程度の文を紙に書き、一日中貼っておく。例えば、

「どんよりとした雲が広がり、今にも雨がふり出しそうな空です。日付けが変わるころに雨がふるでしょう。二十二℃ぐらいまで晴れときどきくもりです。20度まで上がり、4月下じゅんなみのあたたかさです。日中気温がどんどん上がります」

等である。このような話を毎朝扱い、教科書には出てこないが、知っておきたいことばの指導や、季節感や感性を身に付けさせる活動を行ってきた。

2 お天気の話の扱い方

私は毎朝の天気予報を見て、気象予報士が話したことの中から、晴れ時々曇り等、最高気温をはじめとし、「しだいに雲がふえます。」「～～という天気なので、～～したほうがいいでしょう。」と言ったことを中心にメモをとり、学校でB4、2枚の裏紙に書いている。その時、子どもに答えさせたいことばを〇〇〇とあけておく。そして朝の会で、子ども達と話し合いながら〇〇〇にことばを入れ、話を完成させていく。最後は、書いてあることをイメージさせながら、発音に気をつけさせながら音読させている。（発音の練習を兼ねている）また時間があるときや週末の宿題で、お天気の話からイメージする絵を描かせることも行っている。



3 授業内での実際のお天気メソッドの話し合い（例）

発問	児童の反応	発問の意図
<p>「お天気の話をしましよ う？」 「今日は、何が広がるのか な？」</p>	<p>「はい。」 「雲が広がる。」</p>	<p>・朝、家庭で家の人とお天気の話を少しでい いのでしているかどうかを見るための簡単な 発問。</p>
<p>「どんな雲がひろがるのか な？」</p>	<p>「どんよりとした雲がひろ がる。」</p>	<p>・「どんよりとした雲」という のは、空模様を表す一つの表現であり、それ がわかってきたかを見る発問。</p>
<p>「どんよりした雲ってどん な雲かなあ？」 「だから、どんな空なのか な？」 「みんなはかさをもってき たかな？」</p>	<p>「灰色の、今にも雨を降ら せそうな雲かな。重苦しく 感じるような雲。」 「今にも雨がふり出しそう な空。」 「お母さんに持って行っ たと言われたのもってき た。」</p>	<p>・空模様を自分のことばで説明できる力を鍛 える発問。 ・「今にも」という副詞に慣れさせるはたらき かけ。 ・今日のような天気だから、みんなはどうし たのかと、自分たちの生活と密着させること をねらう発問。</p>
<p>「雨がふるのはいつごろだ と思う？」 「日付けが変わるころって 何時ごろかな？」</p>	<p>「日付けが変わるころ。」 「夜中の12時。」 「ぼくのお父さん、日付け が変わるころに帰ってくる ことがある。」</p>	<p>・算数で学習した、1日がいつからいつまで ということが理解できているかどうかを見る 発問。</p>
<p>「今日は、何度ぐらいまで あがるの？さい高気温 は？」 「発音に気をつけて読みま しょう。」</p>	<p>「22度ぐらいまで上がる。」 「どんよりとした雲が広が り、今にも雨がふり出しそ うな空です。日付けが変わ るころに雨がふるでしょう。 22℃ぐらいまで上がりま す。」</p>	<p>・だいたい暖かさ、暑さを確認させる発問。 ・朝、発音に気をつけさせる働きかけをする ことにより、1日の学校生活の上でも発音を 気にする習慣をつけるための働きかけ。</p>

4 天気予報のフレーズの研究

全国いたるところの天気予報を調査したが、ところどころ、その地方特有の天気予報を話しているところも存在した。以下はその土地で聞いたラジオやローカルテレビ等の天気予報のフレーズ、並びに研究協力者等に尋ねたフレーズである。

①神奈川県地方

- ・「行楽日和です。のんびり山下公園をお散歩してみるのも良いでしょう。」
- ・「朝晩は肌寒く感じ、また風が強いので、みなとみらいで遊ぶ方は、遊具に乗る際に帽子をとばされないようにしましょう。」
- ・「今日は花火大会があります。風向は南西。ですので、煙に邪魔されずに花火を楽しむには、みなとみらい側がおススメ。注意が必要なのは、暑さ。気温は19時以降も29度前後。湿度は80%前後と高い!風は強めに吹くものの、大勢の人でにぎわう所ではかなり蒸し暑く感じられそう。うちわや扇子を忘れずに。こまめな水分補給を心がけましょう。また、アルコールは体の水分を奪うので、飲みすぎにはくれぐれもご注意を!!」

②埼玉県地方

- ・「関東では今年一番気温の上がっている所が多いです。埼玉県鳩山は気温が特に上がりそうです。鳩山町にはゴルフ場が何カ所もあります。必ず帽子をかぶって、プレーを楽しんでください。」
- ・「深川付近は曇り空。降水確率はやや高く、天然の「お清めの水」がかかる可能性も。極端な暑さは予想されていませんが、最高気温は30度を少し上回るくらいで、湿度は高め。祭りの熱気とあいまって、かなりの蒸し暑さとなりそうです。」

③千葉県銚子地方

- ・「銚子の春キャベツも、春の暖かさで一気にふわっと大きくなり、甘くてやわらかい食べ頃を迎えています。冬から育てられる銚子の気候だからこそ、甘くてやわらかい春キャベツができるようです。」
- ・「今日は天気がいいので、犬吠崎の「地球が丸く見える丘」からというところがあり、水平線が丸く見えるでしょう。」

④群馬県地方

- ・「天気は快晴ですが、赤城おろしが強いです。赤城おろしの影響で、強風の影響で、体感温度はかなり低くなりそうです。」
- ・「青空に恵まれます。上毛三山もよく見えるでしょう。利根川のサイクリングコースから山を眺めるのも最高でしょう。」

⑤兵庫県地方

- ・「六甲アイランドの芝生広場で両足両腕を投げ出して、青空を眺めるのもいいでしょう。神戸の海と空が絵はがきのように見えるでしょう。」
- ・「有馬の瑞宝寺公園に行くと、燃えるような紅葉が見られそうです。今年は雨が少なかったのも、木がこれ以上水分を失わないように早めに葉を落としています。」
- ・「六甲山の花崗岩が風化した酸性土により、日本のどこよりも美しいと言われる神戸市立森林植物園のあじさいが綺麗に咲いています。今日はあじさいの上にはおてんと様」

輝くでしょう。」

5 お天気メソッドの授業事例

天気予報のフレーズを題材とし、小学校、中学校、特別支援学校で授業を実施した。どの課題についても、児童生徒は興味を持って題材に向かい、一定の成果を得た。

なお、授業実践を行ったのは、次の学校である。

扱った題材を後に記す。

愛知県名古屋市立菊井中学校難聴学級

愛知県名古屋市立菊井中学校通常学級

沖縄県浦添市立仲西小学校（2回）

秋田県立秋田聾学校小学部

秋田県立秋田聾学校中学部

秋田県立秋田聾学校高等部

福島県立聾学校小学部

筑波大学大学院

また本研究の普及のための講演会を下記学校で行った。

秋田県立聾学校職員研修会

福島県立聾学校職員研修会

名古屋市立菊井中学校授業研修会

①「ひさしぶりの青空で、せんとくものをかたづけるチャンスでしょう。」

子どもたちにこの文からイメージした絵を描かせた。すると、2つのグループに分かれた。一方は「せんとくもの」「かたづける」というキーワードから、干した洗濯物を取り込む（片付ける）という絵を描いた子ども達、もう一方は洗濯物を干している絵を描いた子ども達である。前者の子ども達は、特に「片付ける」のことばに反応し、洗濯物を取り込む絵を描いたが、この子ども達はこの話が理解できているとは言い難い。後者の絵を描いた子ども達に、「この子は何をしているの？」という問いかけをしたところ、「やっと晴れて洗濯ができたから、洗濯物を洗って干している。」と答えた。この子どもたちは、「洗濯物をかたづける」を、たまった洗濯物を洗濯し、干すという、一連の流れでしっかり理解できていた。

授業者のねらいとしては、たまった洗濯物を洗って干す状況をわかった上で、たまった洗濯物を隙間なく、たくさん干しているような絵を描くと良いと考えていたが、後者の子ども達は、ほぼこれに近い絵を描くことができた。この子ども達は、この場面での「かたづける」ということばの意味を正しく捉えていたと言える。



②「きょうは1日中雨です。午前中はふったりやんだり、昼すぎから雨が強くなり、夜九時ごろピークをむかえるでしょう。」

これはお天気マークで言えば、傘マーク一つであるが、この文の中には時間の経過と共に降り方が表わされている。子ども達に「雨の降り方を手の動きと声で表現してみましよう。」と言ったところ、経時的な降り方の違いについて、理解できていた。お天気としては雨という言葉で済んでしまいがちである、雨の降り方を考えさせることで、様々な雨を、ことばで押さえることができるのではないかと考えられる。

③（理科の学習への発展）

「きょうは日ざしたっぷりで、せんたく日よりでしょう。ただ北風がつよく、えんとつからのけむりは、ま横にたなびくでしょう。せんたくものはしっかりとめたほうがいいでしょう。」

この話についても、イメージする絵を描かせた。こちらからは描く前に「風、えんとつから出るけむり、人、せんたくものがほしてあるようす、ふきだしはかならずかいてね。」と話した。子ども達が描いた絵を見ると、様々な絵があった。教科書にはなかなか出てこない「たなびく」の意味がわからなかった子どもも何人もいた。ある児童は風がきちんと描いてあり、煙がだいたい横にたなびいている絵を描いていたのは良かったが、風と煙の向きが合っていなかった。

「煙はどちらからふいているの？」

このように尋ねると、児童は風の向きと、煙のたなびいている向きが矛盾していることに気づいた。さらに全員に、

「つよい北風が吹いているんだよねえ。風が洗濯物にあたると、どうなるのかなあ。」

と問いかけたところ、多くの児童がはじめてそこで、風が当たると、洗濯物が揺れるということに気がついた。このようなことはわかっているようでも、文字だけの情報からイメージするのは容易ではないことが理解できる。



沖縄県仲西小学校での授業

④（理科の学習への発展）

「晴れのちくもりです。うららかな南風が吹きます。風速8メートルをすぎると、春一番の発表があります。日中は19度まで上がります。」

これは春一番の話である。春の足音を感じさせる「春一番が吹く」ということを天気予報では伝えるが、春一番にせよ、木枯らし一号にせよ、このようなことを意識することによって季節感が子ども達にも芽生えると思う。しかも気象キャスターは、「地上10メートルの高さのところを秒速8メートル以上の強風が吹いたら」という春一番の定義にまで触れていた。親の方もただ単にあたたかい強い風と思っているところ、ここに高さ、秒速、方向が入ることにより、「春一番」というものが具体的に理解できてくるのではないかと思う。低学年ではこのような詳しい知識は必要ないと思うが、高学年では理科や算数の学習とも結び付くのではないかと考える。前のページの絵は児童が描いた絵であるが、実際に春一番が吹いた場面で、朝の天気予報の話を出したようである。また強風のためにいろんな物が飛んできたり、髪の毛も乱れているのがわかる。多分この児童は、天気の話から絵を描く経験を積んできたので、ここまで描けているが、なかなか初めてはこのような感性は持ちにくいのではないかと考える。

⑤（安全教育への発展）

「つめたい雨がぱらぱらしとしとふるでしょう。車から目立つ色を着るといいでしょう。手がかじかむさむさです。」

お天気の話を動作化している児童

左側の児童：自動車のまね 右側の児童：横断歩道を歩いているまね

雨降りで見通しが良くない日、黄色や黄緑り等目立つ服を着ていれば車から見やすく安全である。このような感覚は教えなければわかりにくく感覚である。子どもたちは動作化もして、登下校時の心構えについて学べるのではないかと考える。

⑥（保健体育の学習への発展）

「午前中はよく晴れますが、午後はきよく地的にわか雨がふるかもしれません。今日は気温が上がり、熱中症のきけんレベルです。洗たく、そうじ、買い物、草取りをしている時など、気をつけましょう。」

これは、学級指導並びに保健で学習する「健康」に関する話とつながります。話をした後、子ども達に絵を描かせたところ、文章に合った絵を描くと同時に「日がさがかかせないわ。」

「水分をとらなくっちゃ。」「ひんやりベルトをしよう。」「風とおしをよくしよう。」等熱中症対策をも吹き出しに書いた子どもが何人もいた。



⑦（社会科の学習への発展）

「寒いひなまつりです。晴れのちくもりです。まさに真冬並みの寒さです。関東北部は、朝氷点下の気温でした。北海道の札幌では雪が66センチメートルもつもっています。」

「石川、新潟、富山では大雪けいほうが出ています。新潟では229センチメートルもついているところもあります。冷蔵庫に入っているような寒さです。」 本校は、関東南部の学校であるが、同じ寒い日でも関東北部、北陸さらに北海道に目を向け、寒い地方の暮らしを考える学習としても発展させることができた。雪の積もり具合など、学校が位置する市川市と北国では大きな違いがあることを明確にさせることができた。

⑧（算数の学習への発展）

「雨です。つめたい雨となります。きのうは夏日でしたが、きょうはきのうより16℃ひくい10℃です。」

このような話の時は、きのうと今日の気温の棒グラフをかくようにした。「きのうは何度だったん だろう。」

という問いかけをして、 $10 + 16 = 26$ と立式できる子どもは少ない。またこの課題を本校の高学年の学級でも出してもらった。すると高学年でも手こずる児童が少なくないことが明らかになった。算数の問題集等で、

「A子さんはB子さんにあめを16こあげたので、10個になりました。A子さんは最初あめをいくつ持っていましたか。」

と類似する問題であるが、なかなかこのような課題は、情報をきちんと整理して数的処理をする活動で、容易とは言えない課題である。

⑨（英語の学習への発展）

「一日くもりです。北よりのつめたいしめった風がふきます。夏から秋へ空気がチェンジします。」

「秋晴れです。クリアーな青空です。日ざしが強く、日がさがひつようです。27℃まで上がります。」

「・・・昼間はスプリングコート、夜は冬もののコートがいいでしょう。」

「季節が3ヶ月ぐらいバックした感じです。5℃です。」

本校小学部では、5、6年生で英語を総合的な学習の時間に学習するが、日本の日常生活に自然に使われる英語もお天気の話から学ぶことができる。「チェンジ」（変わる）というのは、学校生活でも「ドッジボールのコートをチェンジしましょう。」等とよく使っ

ている。「クリアー」は文房具の「クリアーファイル」「クリアーケース」等を使っている。また「スプリング」という季節を表す英単語も早い時期に知っておく必要があるものと考えられる。また「バック」というのも、車がバックします、野球でバックしてフライを捕った等よく使われる英語である。

⑩ (ことば『副詞(類義語)』の学習への発展)

「朝からはげしい雨(どしゃぶり)です。夕方からじょじょにあがってきます。日中は大きめのかさがひつようです。」

「日中はしだいに青空が広がってきそうです。風の強いじょうたいは、まだしばらくつづきそうです。午後はあたたかいです。」

「くもりのち雨です。午後から雨がふり出します。だんだん雨が本ぶりになります。17℃です。ゴールデンウィークの天気は晴れです。」

「晴れときどきくもりです。19℃まであがります。日ざしがけっこう強くまぶしいです。ゴールデンウィークぜんはんは晴れるでしょう。」

「先週にくらべるとずいぶんあたたかくかんじそうです。」

「日ざしがあっても、風はつめたいです。16℃です。あしたはさらにひくくなります。」

お天気の話の中には副詞が多く使われるが、その中でも類義語として「じょじょに」「しだいに」「だんだん」また「けっこう」「ずいぶん」「さらに」等が使われる。ひとつの事象に対して、様々な言葉を身に付けるためにも、このような言葉に触れるのは大切なことである。

なお、上記写真の中の言葉は、このお天気の話に合う絵を描くよう指示したときのヒントである。

⑪ (理科と社会科の学習への発展)

「熊本県では梅がほころびはじめました。」

「亀戸天神では、梅の花が見ごろです。」

「ソメイヨシノの開花が少し遅れそうです。3月29日ごろ開花予定です。お花見がまちどおしいです。」

「岐阜県の高山では、春のおとずれを感じさせるふきのとうがめぶいています。」

「松戸市の本土寺は、紅葉が見ごろです。」

「神奈川県横浜市の山下公園ではイチョウ並木が黄色く色づいています。」

「熊本県では秋の足音を感じさせるくりのしゅうかくが始まっています。」

「今週末が東京のソメイヨシノの見ごろです。」

「東京の各地で桜が満開でしょう。すみだ川ぞいは、桜と東京スカイツリーのいいフォトスポットとして人気を集めています。」

このように、こういう時期に、こういう場所で、こういう花が咲いている、こういうものが実っているという話は季節のもの、旬のものを理解させるのに役立つ。

また次のような事例もあった。

「東京の都心ではイチョウが色づき始めました。」

このような話をもとに絵を描かせると、何人かの児童は、黄色くなったイチョウを描いたり、中には銀杏を描く児童もいた。イチョウに銀杏と言えはさすがとも思えるが、ある児童は、

「色づき始めました。」

という言葉をよく読んでおり、前の子供たちとは少し異なる絵を描いた。つまり、緑の葉っぱが黄色になりかかっていることを理解し、黄緑色の葉っぱを描いたり、緑の葉や黄色の葉を混ぜて描いていた。話の最後に全員で絵の評価をし合い、間違えていた子供達も感心していたことがあった。

⑫ (理科の学習への発展)

「秋の深まりを感じます。アキアカネがとんでいたり、エンマコオロギが鳴いていたりします。」

この例にあるようにアキアカネがとんでいたり、エンマコオロギが鳴いていることから秋の深まりを感じるという話である。児童によってはなかなか昆虫などに興味をも持たない児童もいるので、このように意識させることは有効である。また耳が聞こえにくいということで、コオロギは「コロコロリー」、すずむしは「リーン リーン」まつむしは「チロチロリン」等と理解していない児童も多くいる。このようなことが話し合える機会にもなる。さらに虫になってみようと声を出させ、動作化させることで印象強くさせるようにした。

また、

「気温が低いので、なかなかたけのこが出てきません。」

という話からは、本来春になれば、また春が近づけばたけのこが生えてくるのに、まだ寒
「秋の深まりを感じます。アキアカネがとんでいたり、エンマコオロギが鳴いていたりします。」

この例にあるようにアキアカネがとんでいたり、エンマコオロギが鳴いていることから秋の深まりを感じるという話である。児童によってはなかなか昆虫などに興味をも持たない児童もいるので、このように意識させることは有効である。また耳が聞こえにくいということで、コオロギは「コロコロリー」、すずむしは「リーン リーン」まつむしは「チロチロリン」等と理解していない児童も多くいる。このようなことが話し合える機会にもなる。さらに虫になってみようと声を出させ、動作化させることで印象強くさせるようにした。

また、

「気温が低いので、なかなかたけのこが出てきません。」

という話からは、本来春になれば、また春が近づけばたけのこが生えてくるのに、まだ寒いので、旬のたけのこがまだ生えてこないという話もできる。

⑬ (理科の学習・社会の学習・ことばの学習への発展)

「まさに真冬なみの寒さです。関東北部は、朝氷点下の気温でした。」

この話にもいくつものポイントがある。それは以下のような点である。

- ・ 3月3日はひなまつりであることを確認。

→ひなまつりの話への発展ができる。

- ・ 「まさに」ということばの用法が学べる。

→なかなか日常会話や「教科書に出てこない

「まさに」をどんな時に使うか話ができる。

例：まさに天気予報どおりの青空だ。

- ・ 関東北部と南部の気候の違いが話題にできる。

→関東地方の中でも天気は異なる話ができる。

- ・ 氷点下の気温とは何度ぐらいのことかが話題にできる。

→水は0℃で凍ることなど、通常なかなか自分達の暮らしでは経験しない気温についても話せる。

⑭ (理科の学習・ことば「擬態語擬音語」への発展)「のろのろ台風が近づいています。とつぜんの雨に注意してください。」

この話は9月1日の話であるが、まさに9月は台風の季節であるという象徴的な話である。そして台風の進むスピードにも触れていて、ゆっくり進むというのを「のろのろ」という言葉を使っている。子どもたちは、電車や人の動きだけではないことでも「のろのろ」ということばを使うことがあるということを知ることができる。



⑮ (安全教育への発展)

「大型で強い台風6号が今夜上陸しそうです。海のレジャーはひかえて下さい。暑さは少しやわらぎます。」

地震の後の津波にも関係しているが、台風が近づくというのは雨や風が強まるだけでなく、海が荒れることを認識する機会になる。そのような理由で、海のレジャーを控えた方がいいということになる。「海のレジャーってどんなこと？」という話し合いにも発展できる。

⑯ (理科の学習への発展)

「まさに真冬なみの寒さです。関東北部は、朝氷点下の気温でした。」

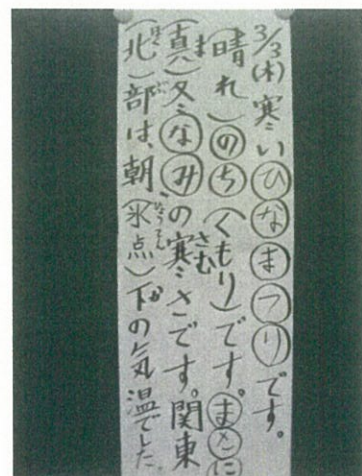
「ふもとは、19℃ですが、富士山頂はマイナス13℃です。」

「日中は16℃まで上がります。4月上旬並みのあたたかさです。朝晩の気温差が大きいので、ぬぎきしやすいかっこうがいいでしょう。」

上記に記した3つのお天気の話は、気温差がある例の典型的な例である。それは上から、

- ・地域の違いによる気温差
- ・土地の高さのによる気温差
- ・朝と晩の気温差

である。このように様々な条件による気温差があることを意識させることもできる。



⑰発展的な取り組み

小学3年生ともなると、これまで朝の会で話し合った知識や感覚をもとに、児童が、朝の天気予報や朝の空の様子を見て、お天気の話を作れるようになってくる。

「気象予報士になってみよう！」
ということで、生活に密着した天気の話を作った。この日は、風が強い日で、冷える冬の日であった。



Aさんのつくった天気予報

「今日は晴れですが、風がそうとう強いでしょう。とくに女性はスカートがめくれあがらないように気をつけましょう。電柱とか木にぶつからないように気をつけましょう。」

Bくんが作った天気予報

「晴れですが、北風が強く、ぼうしをかぶっている人は、とくに ぼうしがとばされないように気をつけましょう。」

このようにそれぞれが、今まで習ったフレーズを使い、風が強いから何々しましょうと話を考えていた。この時も書き上がったら学級全体のそれぞれの文を見合い、良いところを

6 普通小学校・普通中学校での実践の具体的な授業展開

普通学校・特別支援学級・特別支援学校を問わず、生活に密着した言語力、感性、コミュニケーション力が十分ではない児童も多い。言語力の修得には、教員や保護者の様々な題材を使用した関わりが必要である。その1つの題材として、私達の生活に身近な題材「天気予報のフレーズ」を利用した授業実践を考案した。

天気予報の気象キャスターの話には、国語や理科の教科書にはあまり出てこないが、小学生、中学生として、知っておきたい言葉、例えば「小春日和」「天気もつ」「天気が崩れる」「秋が深まります」「秋の足音を感じさせます」「こまめに水分補給をしましょう」等たくさん含まれている。

それらの言語学習を進めながら、「このような天気だからどうすればいい」「このような天気だから（自然は）どうなる」と捉える感性や、友達の考えの良いところを認め合い、伝え合うコミュニケーション力を向上させるという授業を展開したい。また生徒自身が天気予報の話を作文するという活動も入れたい。

児童、生徒にはこの授業をきっかけに、天気予報のことばに興味関心が持てるよう働き掛けたい。また本授業は、生徒の保護者の方々にもご覧いただくので、家庭において、保護者の毎日のちょっとした天気に関する語りかけの積み重ねで、言語力や感性の向上が期待できることを保護者の方々には知っていただきたいと考える。

(1) 沖縄県浦添市立仲西小学校での授業実践

- ①実践校 沖縄県浦添市立仲西小学校
- ②実施日 平成25年12月18日
- ③実施学年 小学4年生 32名(男子18名 女子14名)
- ④単元名 国語「天気予報の話で日本語力を高める」
- ⑤指導のねらい

- ・身近な題材である天気予報の話の叙述に注意しながら、様子を想像し、書かれていることを正しく読み取る。さらに読み取ったことを絵に表す。
- ・気が付いたことを正しい日本語で、友達にわかるように伝える。

⑥ 特設授業の評価基準

天気の話に対しての 感心・意欲・態度	天気の話に対しての 思考・判断・実践	天気の話に対しての 知識・理解
日頃、天気を知るために見る天気予報を、言葉という側面に着目して感心を持つ。そして天気予報の話から、その叙述に即した絵や吹き出しを意欲的にかこうとする。さらに友達の発言に対し、しっかり聴いている。	天気予報の中のキーワードを手がかりにして、天気予報の叙述には書かれていない事柄も含め、状況をつかんでいる。またその状況に合った絵をわかりやすく描いている。そして描いた絵について友達にわかりやすく伝えている。	「紅葉が始まりました」という文で、緑色の葉っぱが色づきはじめたことが理解できている。また「切れ間」「日が差す」「風になびく」「風にあおられる」「煙がたなびく」「幟がはためく」などの意味が理解できている。そして天気の状況から、どうした方が良いか、自然がどうなるか等について理解できている。

⑦ 本時の指導と生徒の活動

(1) 本時のねらい

- ・風の強い日の天気予報の話の叙述に注意しながら、様子を想像し、書かれていることを正しく読み取る。その際、書かれていないことでも関連することは想像する。
- ・風が強いからどうなるかということについて、気がついたことを正しい日本語で、友達にわかるように伝える。

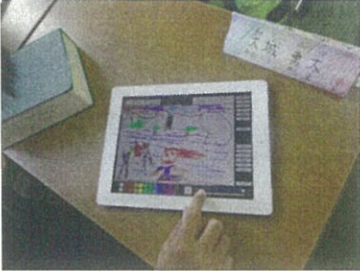
(2) 準備・パソコン プロジェクター 色鉛筆 画用紙 お天気のペープサート



⑧本時の展開

時間配分	活動の内容	指導上の留意点
3分 5分	1 挨拶 自己紹介 2 学習事項の確認	○本時では、以下のような学習をすることを話す。
	<p>【学習すること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・天気予報のお天気キャスターの話を題材に、言葉等についての学習を行う。 ・天気予報の話に合った絵を描く。 ・自分が描いた絵について説明する。 ・授業日の天気予報の話を創作する。 	
3分	3 教師の話	○天気予報はお天気を知る以外にも価値のあるものであることを話す。また、話し合いの中で、友人から多様な考えを聞く中で、自分が気付かなかったことを知ることができるという話し合いの効果を話し、児童の話し合いへの参加意欲を高めるようにする。
20分	4 事前テスト	○授業者の説明をよく聞き、iPadを言われたとおりに操作させる。
10分	5 天気予報の話し合い (1) 授業日の天気予報についての話し合い	○授業日の天気予報について尋ね、天気予報を見た生徒に、天気予報でどんな話をしていたか発表させる。もし誰も見ていなかった場合は、天気予報でどんなことを言っていたと思うかを想像させる。その際、ただ「晴れ」「曇り」「雨」等と単語単位で話すのではなく、文のかたちで話すよう促す。 ○話しやすくするために、お天気キャスターの写真に吹き出しをつけた画面を提示する。 ○最高気温や昨日との温度差、このような天気だからどうすればいいとか、どうなると言っていたかも尋ねる。天気合った服装のことや、この時期の自然についての話の例を紹介する。
10分	(2) 天気予報の話に合った様子を思い浮かべる。	○天気予報の話をよく読み、どのような状況であるのかを発言させる。
	<p>「葉っぱの紅葉が始まりました。イチョウ並木やモミジもとってもきれいです。」</p>	○念のため、イチョウやモミジを知っているかどうかを確認し、もし知らない生徒がいれば、緑色の葉っぱのイチョウやモミジの写真を提示する。

	<p>【予想される絵】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イチョウが1本だけの絵。 ・黄色いイチョウと赤いモミジのみの絵。 ・すべて赤い葉っぱの絵。 ・緑色の葉っぱが多い中、黄色く色づき始めたイチョウや赤く色づき始めたモミジを描いた絵。(正答) ・黄色いイチョウや赤いモミジの中に、まだ緑色の葉っぱも描いた絵。(△) 	
20分	<p>(3) 天気予報の話に合った絵を描き、描いた絵や吹き出しについて話し合う。</p>	<p>○正しく描けた生徒には、どうしてこのように描いたか説明させる。</p> <p>○ここでは、「紅葉が始まりました」「イチョウ並木」という文がポイントであり、文章をよく読む必要性を話す。</p> <p>○(2)の経験を踏まえ、さらに天気予報の話をよく読み、絵を描いてみることを話す。その際、吹き出しも書くよう促す。</p>
	<p>「雲の切れ間から日がさします。北風がとても強い1日です。洗濯物が飛ばされないように気を付けましょう。」</p>	
		<p>○ここでは、以下の必ず書いて欲しいものを伝える。</p> <p>空・人(髪の毛の長いスカートをはいた女の人)・洗濯物・工場(煙突から煙が出ている様子を描く)・風・木・吹き出し</p> <p>○進めていく祭、天気予報の話に書かれていないことも想像して描く必要があることを話す。</p>
	<p>【予想される絵 次の観点が描かれていないもの】</p> <p>(観点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雲の間から日が射しているか。 ・風が描かれているか。 ・髪の毛が、風になびいていたり、髪が乱れているか。 ・スカートが風にあおられていたり、気にかけている様子が描かれているか。 ・洗濯物は風に吹かれて揺れているか。 ・洗濯物が、しっかりととめられているか。 ・工場から出ている煙がたなびいているか。 ・木の葉っぱが揺れているか。等 	
		<p>○描き上げたら、児童一人ひとり、絵を友達に見せ、良いところを友達に発言してもらい、なぜ良いのかを話し合う。</p>

14分	6 事後テスト	 <p>○答え方を思い出し、正しく操作させる。</p>
2分	7 まとめ 天気予報の話についての感想を話し合う。	○最初に話題にした、天気予報は天気を知るだけではなく、様々な日本語を使い、生活に密着した話題を話していることに気付かせる。
3分	8 質問紙調査	○思ったことを正直に書くよう伝える。

(途中で10分間の休憩をとる。)

⑨児童の感想の一部

- ・アイパッドでクイズやおえかきをすることがちょっとむずかしかったけどゲームみたいでたのしかったです。またこのじゅぎょうをやりたいです。
- ・今日のじゅぎょうはとってもたのしかったです。今日はいそがしい中私たちに天気や季節のことを教えてくださって本当にありがとうございました。次もきかいがあればよろしくおねがいたします。がんばってください！
- ・たなびいているとかなびいてるとかあおられているとか言葉がむずかしかった。
- ・たなびいてるとなびいてるとかが分かりにくかった。
- ・アイパッドのおえかき自由帳のえのかきかたがわからなかった！なびいているや、たなびいているや、のぼりという言葉がむずかしかった！
- ・かみがなびいているとかが、わからなかった。





(2) 名古屋市立菊井中学校での授業実践 (1回目)

- ①実践校 名古屋市立菊井中学校
 ②実施日 平成25年11月8日(金)
 ③実施学年 中学1年、中学2年 中学3年 難聴学級生徒全員
 ④单元名 国語「お天気メソッド 風の強い日の天気予報から」
 ⑤指導のねらい

- ・身近な題材である天気予報の話の叙述に注意しながら、様子を想像し、書かれていることを正しく読み取る。さらに読み取ったことを絵に表す。
- ・気が付いたことを正しい日本語で、友達にわかるように伝える。

⑥ 特設授業の評価基準

天気の話に対しての 感心・意欲・態度	天気の話に対しての 思考・判断・実践	天気の話に対しての 知識・理解
日頃、天気を知るために見る天気予報を、言葉という側面に着目して感心を持つ。そして天気予報の話から、その叙述に即した絵や吹き出しを意欲的にかこうとする。さらに友達の発言に対し、しっかり聴いている。	天気予報の中のキーワードを手がかりにして、天気予報の叙述には書かれていない事柄も含め、状況をつかんでいる。またその状況に合った絵をわかりやすく描いている。そして描いた絵について友達にわかりやすく伝えている。	「紅葉が始まりました」という文で、緑色の葉っぱが色づきはじめたことが理解できている。また「切れ間」「日が差す」「風になびく」「風にあおられる」「煙がたなびく」「織がはためく」などの意味が理解できている。そして天気の状況から、どうした方が良いか、自然がどうなるか等について理解できている。

⑦本時の指導と生徒の活動

(1) 本時のねらい

- ・風の強い日の天気予報の話の叙述に注意しながら、様子を想像し、書かれていることを正しく読み取る。その際、書かれていないことでも関連することは想像する。
- ・風が強いからどうなるかということについて、気がついたことを正しい日本語で、友達にわかるように伝える。

(2) 準備・パソコン プロジェクター 色鉛筆 画用紙 お天気のペープサート

⑧本時の展開

5. 展開

学習事項・発問	予想される反応	配慮事項・手だて
1. 導入 「天気予報はよく見ますか？」 「みんなはどうして天気予報を 見るの？」	○よく見ます。 ○時々見るかな等。 ○その日の天気を知りたいから。 ○見る気はないけれど、テレビをつけているとやっているから見る。 ○見ました等。	・天気予報の写真を提示する。 ・各学年の生徒に尋ねてみる。 ・天気予報を見る理由は書いて黒板に貼っておき、後で天気を知る以外でも価値があるという話に繋げる。

<p>「今朝天気予報を見ましたか。」</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・家の人と天気の話をするかどうかについても尋ねる。
<p>「今日はどんな話をしていたか、覚えている？」</p>	<p>○（例）晴れって言っていた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・短い回答であった場合、「他
<p>「今日の最高気温は？」</p>	<p>○（例）17度</p>	<p>には何か言ってなかった？」と尋ねる。その祭、</p>
<p>「昨日との気温差は？」</p>	<p>○（例）わからない。</p>	<p>お天気キャスターの写真と吹き出しを黒板に貼る。</p>
<p>「今日の最高気温は？」</p>	<p>○（例）3度ぐらい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・もしわからなければ、想像で良いので、生徒に発言を促す。
<p>「昨日との気温差は？」</p>	<p>○（例）空気が乾燥して、洗濯物が乾きやすいつて言っていた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・天気に合った服装のことや、この時期の自然についての話の例を紹介する。
<p>「こういう天気だから、どうすればいいとか、どうなるって言ってた？」</p>		
<p>2. 本時の課題 ある日の天気予報についてよく読み、絵を描こう。</p>		
<p>練習課題 「葉っぱの紅葉が始まりました。いちよう並木やもみじもとってもきれいです。」</p>	<p>○（紅葉が始まりましたという言葉に気が付き、緑と黄色と赤の葉っぱが混ざっている絵。）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・いちようや紅葉を知っているかどうか確認し、もし知らない生徒がいれば、緑色の葉っぱのいちようやもみじの写真を提示する。
<p>課題 「雲の切れ間から日がさします。北風がとても強い1日です。洗濯物が飛ばされないように気を付けましょう。」</p>	<p>○（観点） ・雲の間から日が射しているか。 ・風が描かれているか。 ・髪の毛が、風になびいていたり、髪が乱れているか。 ・スカートが風にあおられていたり、気にかけている様子が描かれているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・正しく描けた生徒には、どうしてこのように描いたか説明させる。
<p>課題 「雲の切れ間から日がさします。北風がとても強い1日です。洗濯物が飛ばされないように気を付けましょう。」</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・必ず書いて欲しいものについて提示する。 空・人（髪の毛長いスカートをはいた女の人）・洗濯物・工場（煙突から煙が出ている様子を描く）・風・木・吹き出し
<p>課題 「雲の切れ間から日がさします。北風がとても強い1日です。洗濯物が飛ばされないように気を付けましょう。」</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人ひとり、絵を友達に見せ、良いところ

<p>「今日の天気予報について、お天気キャスターになったつもりで自分で作文してみよう。」</p> <p>「自分がつくったお天気の話を発表してみよう。」</p> <p>3 まとめ 「天気予報の話について、どう思ったか？」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・洗濯物は風に吹かれて揺れているか。 ・洗濯物が、しっかりとめられているか。 ・工場から出ている煙がたなびいているか。 ・木の葉っぱが揺れているか。 <p>○(例) 今日秋晴れで、絶好の紅葉狩り日和でしょう。日中は汗ばむ陽気になるでしょう。</p> <p>○いろんな話をしてることがわかった。今度からもっとよく話を聞いてみたいと思った。</p>	<p>を発言してもらい、なぜ良いのかを話し合わせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進めていく祭、少しずつ、天気予報の話に書かれていないことも想像して描く必要があることに気付かせたい。 ・こういう天気だから、こういう服装がいい。こういう天気だからこうなるでしょう。といった、天気と、それに結びつくことがらを書くよう助言する。 ・相手にわかりやすいように話し、聞く側は良かったところについて、理由も説明する。 ・最初に話題にした、天気予報は天気をを知るだけではなく、様々な日本語を使い、生活に密着した話題を話していることに気付かせる。
---	---	---



(3) 名古屋市立菊井中学校での授業実践（2回目）

- ①実践校 名古屋市立菊井中学校
- ②実施日 平成26年1月22日（水）
- ③実施学年 1AG・2AG組特設授業指導案
- ④単元名 国語「天気予報の話から学ぶ」～季節の天気合った日本語表現
- ⑤指導のねらい

・天気予報を天気を知るという観点ではなく、日本語表現という観点で読ませ、生活に密着したことばを獲得させる。また生徒の知っている言葉を駆使させ、課題に合った文章と絵をかく。そしてお互いの文章と絵を見て、良いところを評価させる。



⑥特設授業の評価基準

天気の話に対しての 感心・意欲・態度	天気の話に対しての 思考・判断・実践	天気の話に対しての 知識・理解
日頃、天気を知るために見る天気予報を、言葉、季節感という点に着目して感心を持つ。そして真冬の天気予報の話や絵や吹き出しを意欲的にかこうとする。また友達がかいた冬の様子絵や吹き出しを見て、良いところを見つけ発言する。 (難聴生徒) 聴覚を活用し、しっかり聴いている。	天気予報の中の季節に合った比喻表現等のフレーズを踏まえ、真冬の天気予報の話と絵を想像する。そしてその状況に合った絵や吹き出しをわかりやすくかいている。またその描いた絵や吹き出しについて友達にわかりやすく伝えている。 (難聴生徒) 前回の経験を生かし、スムーズに活動している。	風が強い日の天気の話からは「切れ間」「日が差す」「風になびく」「風にあおられる」「煙がたなびく」「幟がはためく」などの意味を理解する。また真夏の天気の話からは「じとじととまとわりついてくるような暑さ」「うだるような暑さ」「体にこたえる暑さ」等の表現のイメージを理解することができる。 (難聴生徒) 風の強い日の話は再度となるので、発言ができる。

⑦本時の指導と生徒の活動

(1) 本時のねらい

- ・身近な題材である風の強い日の天気予報の話の叙述に注意しながら、その話に関連した日本語表現を理解させる。
- ・真夏の天気予報の様々な暑さの表現を理解させる。
- ・真冬の天気予報を、お天気キャスターになったつもりで、知っている日本語を駆使して作文させる。そしてその作文に合った絵を描かせる。
- ・友達が作った天気予報やそれに合った絵を見て、良いところを発表させる。

(2) 準備

- ・パソコン プロジェクター 実物投影機 スクリーン 色鉛筆 画用紙 ワークシート

⑧本時の展開

時間	活動の内容	指導上の留意点
1分 2分	1 挨拶 自己紹介 2 学習事項の確認	○本時では、以下のような学習をすることを話す。 【学習すること】 ・風の強い日の天気予報の話や絵をもとに、そこで使われる言葉を学習する。 ・真夏の天気予報の話をもとに言葉の学習をする。 ・自分で天気予報の話を作成し、その話にあった絵も描く。 ・友達がつくった天気予報の話や絵の良いところを見つける。
9分	3 天気予報の話し合い (1) 風の強い日の天気予報	

についての話し合い | て描いた絵も提示する。

「雲の切れ間から日がさします。北風がとても強い1日です。洗濯物が飛ばされないように気を付けましょう。」

- 絵には以下の必ず書くよう指示したことを話す。
空・人（髪の毛の長いスカートをはいた女の人）・洗濯物
- ・工場（煙突から煙が出ている様子を描く）・風・木
- ・吹き出し
- 提示した絵を見て、良いところを発言させる。
- 前回授業を受けたことがある難聴の生徒にも指す。

【予想される発言・期待したい発言】

- ・雲の間から日が射している。
- ・風が描かれている。
- ・髪の毛が、風になびいていたり、髪が乱れている。
- ・スカートが風にあおられていたり、気にかけている様子が描かれている。
- ・洗濯物は風に吹かれて揺れている。
- ・洗濯物が、しっかりととめられている。
- ・工場から出ている煙がたなびいている。
- ・木の葉っぱが揺れている。
- ・のぼりがはためいている。等

10分

(2) 真夏の暑い日の天気予報についての話し合い

- 下記のような文を提示し、どんな言葉が入るか考えさせ、わかりにくい文章については、内容がわかっている生徒にその文章について説明させる。
- 生徒の発言は肯定的に受け、生徒の発言に丁寧に対応する。
- 以下の文はフラッシュで1文ずつ提示し考えさせる。

(どれくらい暑いかにあつての話)

- ・空気がじ○○○とま○○○ついてくるような暑さです。
- ・う○○ような暑さになりそうです。
- ・じっとしていても汗がふ○○○暑さとなりでしょう。
- ・体にこ○○○暑さです。
- ・日ざしがじ○○○と照りつけそうです。
- ・体温なみのも○○○な暑さになるでしょう。
- ・1日、汗が体から出○○○ます。
- ・各地で逃○○○のない暑さがつづいています。
- ・寝○○○い夜に拍車がかかります。
- (暑いからどうすれば良いかの話)
- ・日○○が手ばなせません。
- ・熱中症にならないようにこまかな水□□□を忘れないでください。
- ・寝る前のコップ一杯のお口も暑さ対策の1つになるでしょう。

(5) 福島県立聾学校での実践

- ①実践校 福島県立聾学校小学部2年生
- ②実施日 平成25年10月29日
- ③実施学年 小学部 2年 3名
- ④単元名 国語「天気予報の話（風が強い日の天気予報）」
- ⑤指導のねらい

- ・身近な題材である天気予報の話の叙述に注意しながら、様子を想像し、書かれていることを正しく読み取る。さらに読み取ったことを絵に表す。
- ・気が付いたことを正しい日本語で、友達にわかるように伝える。

7 終わりに

私は提示する文章を、三・四行の文章にしているが、長い文ではなく一行で、例えば「はれたりくもったりの一日」「どんよりしていてむし暑い1日」のように少し変えてみるだけでも良いのではないかと思う。「天気 晴れ」「天気 くもり」等の表現を少し変えてみるような取り組みによって、少しずつ言語力と感性が磨かれていくことと思う。

WNI 気象文化創造センターのご支援のおかげで様々な学校でお天気メソッドの授業を行う機会があったが、一人ひとりのことばの力や生活経験は異なるものの、ある一日の天気の話について、みんなで話し合うことができた。子ども達の様子を見ていて、お天気の話という題材は幅広く子ども達に受け入れられやすいものだと実感した。

ここで紹介した「お天気メソッド」は聾学校だけでなく、普通幼稚園・普通小学校・普通中学校でも十分に使えるものだと考えている。教師は子どもの生活にも目を向け、子どものものの捉え方や感じ方に気を配る必要がある。朝の短い時間での「天気予報」の扱いの中に、子どもに身につけさせたいことばや言い回しを見つけ学習させる。そのような意識の積み重ねが子どもの確かなことばの獲得につながると考える。

今回、気象文化創造センターの支援を得て、9つの授業と3つの講演会を行うことができた。今後とも天気予報の言語的側面での研究を積み重ね、全国に普及していきたいと考える。今後ともご支援ご鞭撻、よろしくお願いいたします。